

2年部学年通信「伐株山」

玖珠美山高等学校 2年部 学年通信・第7号 1月18日発行

2019年を迎えました。生徒のみなさんは冬休みを有意義に過ごすことができましたでしょうか？そして、今年1年をどのような年にしたいと考えていますか？3学期が終われば、あっという間に3年生になります。1年後の進路実現に向けて気持ちも新たに頑張ってくださいと思います。

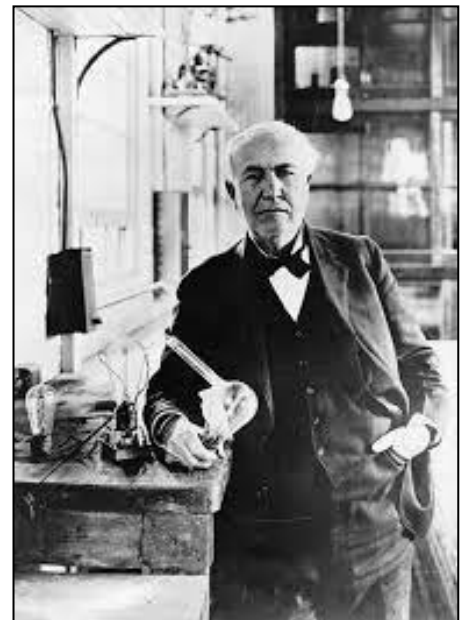
天才とは99%の汗と1%のひらめきである

(Genius is one percent inspiration and 99 percent perspiration.)

世界の発明王として今日になお燦然と光を放っている**エジソン**。幼い頃、全く勉強はできませんでした。むしろ落ちこぼれの生徒と呼んだほうが適当でした。学校でも「空はどうして青いの？」とか「風はどこから吹いてくるの？」といった他愛ない質問ばかりしていたそうです。また「なぜ物は燃えるのか」を知りたいと思い立ち、藁を燃やしていたところ、自宅の納屋を全焼させてしまったこともありました。小学校に入学して3ヶ月後、担任の先生はエジソンの家を訪ねて来て、彼の母親にこう言いました。

「お気の毒ですが、エジソンくんには退学してもらいます。理由ですか？算数の時間に、 $1+1$ が2であることをいくら説明してもわかってくれないのです。こういう生徒さんには教えきれませんから。」

学校を退学させられたエジソンには、母親が文字や数字を教えました。彼は少年時代のことを次のように語っています。「父も私のことを馬鹿だと決めつけていました。私自身も危うく自分自身を馬鹿だと思い込むところでした。」しかし、その後彼が発明したものは、蓄音機、映写機、白熱電燈など、総数1300種類に及んでいます。実に素晴らしい頭脳であったのです。小学校の先生や父親の方が、彼の才能の芽を見抜けなかっただけなのです。また何かに没頭すると、それ以外のことが全く目に入らなくなってしまうほど、高い集中力を持っていたと言われています。考えごとをしている時に話しかけてきた妻に「君は誰だっけ？」と質問して妻を激怒させたというエピソードもあったそうです。



後年、世紀の大発明家となったエジソンの研究室へ、多くの新聞記者がインタビューに訪れるようになりました。そして、よくこう尋ねました。

「ミスター・エジソン、あなたの天才と成功の秘密は何ですか？」

エジソンはその度に答えました。「私は天才なんかじゃありませんよ。でも、秘密はありますよ。電球の発明に取り組んでいた時、何回やっても失敗しました。千数百回目も失敗とわかったとき、ある助手が『またか』と言いました。その時、私は言ったのです。『この方法ではだめだということが、この実験ではっきりとわかったらう。だから、これは失敗ではなく成功だよ。』

電球の発明はこうした成功を何度も積み重ねた結果生まれたものなのです。天才とは、99%の汗 (Perspiration) と1%のひらめき (Inspiration) なのです。」

(ちなみに、彼は自分の発明の権利を守ることに非常に熱心であり、そのための争いを厭いませんでした。このため彼の生涯を「1%のひらめきと99%の訴訟」なんていう人もいます。)

みんなの周りにも成績のいい友人がいて、時に羨ましく感じることもあるかもしれませんが、でもそんな友人こそ、きっと**人には見えない努力**をやっているはずですよ。99%の汗をかいているはずですよ。美しく優雅に水面を滑っていくあの白鳥も、水面下ではバタバタと懸命に両足を動かしているのです。見えないところで努力できる人になりましょう。

○ 新春行事百人一首大会

1月10日(木)の5・6限に、1・2年生による百人一首大会が行われました。試合はチーム戦でおこなわれ、各チームが4試合(試合時間は15分間)おこないました。当日は寒い日でしたが、熱戦が繰り広げられました。

和気あいあいの雰囲気のもとにおこなわれた百人一首大会によって、あらためてクラスの仲間との親睦を深めることができたのではないのでしょうか。また、正月の風物詩としてなじみの深い百人一首を通して、日本の伝統・文化にも親しみをもつことができたことと思います。

なお、結果は2年1組の班が優勝でした。



< 今後の行事予定 >

- 2月 2日(土): 土曜講座
- 2月 7日(木): 推薦入試
- 2月14日(木): 美山マルシェ
- 2月16日(土): 土曜講座
- 2月21日(木)~26(火): 学年末考査
- 3月 1日(金): 卒業式
- 3月 8日(金): クラスマッチ
- 3月12日(火)~14(木): 高校入試
- 3月22日(金): 修了式

